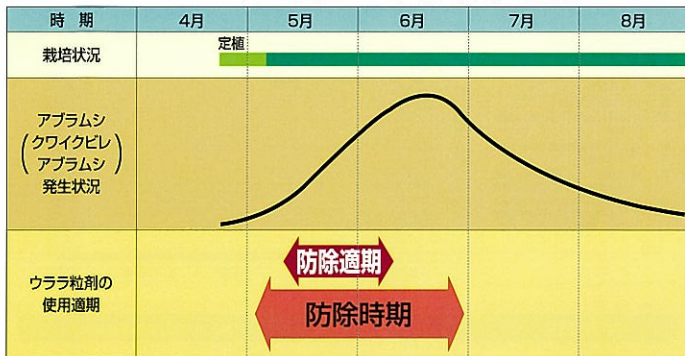


## ウララ<sup>®</sup> 粒剤の上手な使い方

### 1. れんこんのアブラムシの発生時期とウララ粒剤の使用適期(例)



#### ※クワイクビレアブラムシの発生生態

バラ科のウメ、モモ、スモモ等で越冬し、3~4月頃有翅成虫がクワイクや水辺の水生植物へ移動する。れんこん田へは5月頃から侵入し、れんこんや雑草に寄生して10月頃まで生息する。れんこんへの加害のピークは、5月上旬から6月上旬までの1ヶ月間である。また、取付により、生育初期のれんこんが加害されると、葉は正常に展開出来ない。展開した葉では、取付加害された部分が弱くなり、風でも葉は破れやすく、葉柄は折れやすくなり、地下部のれんこんの生育が阻害される。



### 2. ウララ粒剤の上手な使い方

- アブラムシ発生初期が防除適期です。アブラムシの発生が見られたら、早めに散布してください。
- 10アール当り3kgを湛水状態で散布してください。散布後は少なくとも7日間、落水、かけ流しはしないでください。
- 圃場にウキクサ類が発生する前に散布を心掛けてください(ウキクサが発生している場合は除去してから散布してください)。

#### 適用害虫と使用方法

※本内容は、平成21年2月10日現在の登録内容に基づいています。

作物名	適用害虫名	10アール 当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	フロニカミドを 含む農薬の 総使用回数
れんこん	クワイクビレアブラムシ	3kg	生育期 ただし 収穫14日前まで	2回以内	湛水散布	2回以内

#### ●使用上の注意事項

- ・使用量にあわせて秤量し、使い切ってください。
- ・散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

●空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。●防除日誌を記載しましょう。

9月まで早めに散布しましょう!  
※防除日誌(付録)を  
活用し、防除履歴や作業日誌  
を記入し「食の安全」を大切にします



れんこんのアブラムシをしっかり防除

# ウララ<sup>®</sup> 粒剤

フロニカミド粒剤

※石原農薬(株)の登録商標です。



すぐれた浸透移行性と残効性で安定した効果が持続します。

れんこん被害

クワイクビレアブラムシ

## 物理的・化学的性状

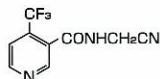
### ◆原体(有効成分)

一般名: フロニカミド

化合物グループ: ビリジニカルボキサミド系

化学名(IUPAC): *N*-シアノメチル-4-(トリフルオロメチル)ニコチンアミド

構造式:



水溶解度: 5.2g/l

### ◆製剤

有効成分含量: フロニカミド 1.0%

性状: 類白色細粒

人畜毒性: 普通物

魚毒性等: 通常の使用では、水産動植物に対し影響を及ぼさないことが確認されています。

## 特徴

- アブラムシに高い基本活性を有する新規殺虫成分フロニカミドを1%含有する粒剤です。
- 新規成分であるため、既存剤と作用機作が異なり、既存剤の効果が低下したアブラムシにも安定した効果を示します。
- 浸透移行性にすぐれ、田面水への散布で、高い防除効果と残効性を示します。
- 天敵類、有用生物に対し、ほとんど影響はありません。
- 10アール当たり3kgの薬量で高い効果が期待できます。

## ウララ粒剤の浸透移行性について

有効成分であるフロニカミドは浸透移行性に非常にすぐれ、トマトでのオートラジオグラムを使用した試験で、茎に処理することにより、処理部より上位の莖葉に浸透移行することが明らかとなっています。



被写体



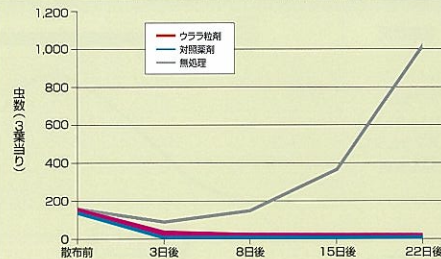
オートラジオグラム

## ウララ粒剤の試験事例

### 効果試験1

(平成13年新潟県植物防疫協会)

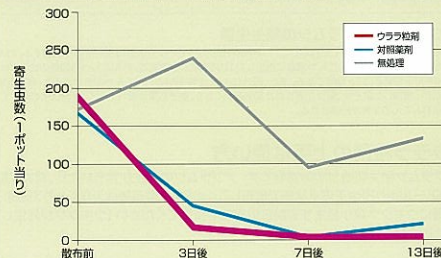
対象作物: れんこん  
対象害虫: クワイヒレアブラムシ  
品種: だるま  
播付け: 4月26日  
区制: 1.36㎡ 2反復  
発生: 6月13日に1区当り5~6頭を記録  
散布: 6月17日に所定量(3kg/10a)を水田施用  
調査: 散布直前、3日、8日、15日、22日後に各区3葉について虫数を調査  
考察: 対照薬剤と同等、無処理区に比べて明らかに高い効果が認められた。実用性は高いと思われる。



### 効果試験2

(平成13年徳島県農業研究所)

対象作物: れんこん  
対象害虫: クワイヒレアブラムシ  
品種: 備中  
播付け: 4月11日  
区制: 2株/1ポット(1.36㎡) 3区制  
発生: 中発生  
散布: 6月15日に所定量(3kg/10a)を均一に水田施用  
調査: 散布直前、3日後、7日後、13日後に各葉のシュートポットの寄生虫数を調査  
考察: 対照薬剤と同等の高い防除効果が認められた。実用性は高いと思われる。



### 効果試験3

(平成14年徳島県農業研究所)

対象作物: れんこん  
対象害虫: クワイヒレアブラムシ  
品種: 備中  
播付け: 4月16日  
区制: 2株/1区(1.36㎡) 3区制  
発生: 多→中発生  
散布: 6月18日に所定量(3kg/10a)を水田施用  
調査: 散布直前、3日後(5基葉)、7日後(10基葉)、14日後(15基葉)の寄生虫数を調査  
考察: 対照薬剤に比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと思われる。

